

平成27年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	ストームジェネシスを捉えるための先端フィールド観測と豪雨災害軽減に向けた総合研究
研究代表者	中北 英一（京都大学・防災研究所・教授）
研究期間	平成27年度～平成31年度
審査結果の所見	<p>本研究は、近年被害が多発しているゲリラ豪雨についての発生過程解明と予測システム開発を目的としている。応募者は、各種の装置を用いて、世界で初めて豪雨の卵（渦）、雨粒の形成から降雨に至る過程を観測・解明している。本研究は、豪雨の卵の発生までの積乱雲発生過程の観測・解析を行い、これまでの研究成果を発展させることにより、豪雨の事前予測を可能とするものである。</p> <p>観測地点が限られる中で、求める現象を観測できない場合への対応が必要であるが、本研究を推進することの科学的、社会的意義は大きく、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>